

「第7回放射光表面科学研究部 会シンポジウム」報告

大門 寛

奈良先端科学技術大学院大学
〒630-0192 奈良県生駒市高山町 8916-5

(20XX年XX月XX日受理)

7-th Symposium of Synchrotron Radiation Surface Science Research Division in Surface Science Society of Japan

Hiroshi Daimon

Nara Institute of Science and Technology (NAIST)
8916-5 Takayama, Ikoma, Nara, 630-0192

(Received XXX XX, 20XX)

2011年11月25日(金)13:00から11月26日(土)15:00までの2日間にわたり、第7回放射光表面科学部会シンポジウムを大阪電気通信大学 寝屋川駅前キャンパスにおいて開催した。前回同様 SPring-8 利用者懇談会顕微ナノ材料科学研究会との合同開催であり、大阪電気通信大学と SPring-8 利用推進協議会産業利用研究会も共催した。参加者は35名で、2日間にわたり活発な議論が行われた (Fig. 1)。



Fig. 1 (color online) Audience of the symposium

【セッション1】

SPring-8の東大放射光アウトステーションも2年目となり、先進的なデータが出始めているので、それらを紹介するセッションとした。尾嶋正治氏が三次元ナノESCAについて、松田巖氏が時間分解光電子分光について、大門が回転楕円メッシュを用いた新しい顕微

光電子回折分光器について、丹羽秀治氏が軟X線発光分光について紹介した。今後期待される応用として唯美津木氏が In-situ 時間・空間分解 XAFS の触媒研究について紹介した。

【セッション2】

高度化の行われた PF の最新の成果と顕微分光の成果のセッションであった。間瀬一彦氏が PF-BL13A の現状と成果について、酒巻真粧子氏が PF BL-16A における磁性薄膜研究について、木下豊彦氏が反強磁性 NiO 磁壁について、小嗣真人氏が隕石由来 L10 型 FeNi 規則合金について、江森万里氏がアナターゼ二酸化チタンについて紹介した。

【ポスターセッション】

13 のポスター発表に対して小森文夫審査委員長を始め10人の審査員が審査し、最優秀ポスター賞は鈴木雅彦氏に、優秀ポスター賞は川崎聖治氏と藤田将喜氏に授与され、それぞれ楯が贈られた (Fig. 2)。



Fig. 2 (color online) Poster session (top) and Awardees of Best Poster Award (bottom).

【セッション3】

表面解析と、昨年に引き続いてのグラフェン

のセッションとした。松井文彦氏が光電子・Auger 電子回折について、小澤健一氏がゴムと真鍮界面の解析について、吹留博一氏が SiC 上の高品質グラフェンの電子状態について、小森文夫氏が微傾斜 SiC 上のエッジに沿った群速度について紹介した。

【セッション4】

今年度特に進展著しいスピン分光研究のセッションとした。高山あかり氏が新開発のスピン ARPES の成果を、奥田太一氏が高効率高分解能のスピン分解装置について紹介した。最後に、越川孝範氏が高輝度高偏極 LEEM についての基調講演を行った。

今回のシンポジウムでは、昨年に引き続きトポロジ

カル絶縁体が取り上げられ、高性能のスピン装置が開発され、スピンが身近なものになってきたことが感じられた。会場と運営については大阪電通大の越川研究室の皆さんにお世話になった。今回は関西の表面関係の会議が二つ重なってしまい、参加者が昨年より少なかったのは残念であったが、実力者が集まり充実した内容であった。次回は慶応大学で行うことになった。